

有限会社 メロディーファーム

担い手として地域や農協と共存共栄の中で調和しリズムよく発展



〈法人の概要〉

所在地：〒089-0102 清水町下佐幌基線 83-1

代表者：代表取締役社長 十川(とがわ)隆好

構成員：5名(構成農家5戸)

役員：5名 常時雇用者：7名

設立：平成8年10月

資本金：360万円

事業内容：畑作／農作業受託

秋まき小麦 64ha、馬鈴しょ(種子・でん原)48ha、てん菜 62ha、大豆 9ha、小豆 14ha 他(H22年)

経営面積：209ha 農作業受託面積：165ha

売上高：1億9,065万円(H21年)

電話：0156-62-5880 FAX：0156-62-5880

〈法人のあゆみ〉

| | |
|------|--|
| 平成8年 | 有限会社メロディーファームを設立(構成5戸、174ha) てん菜は種センターD型ハウス、てん菜育苗ハウスの建設 |
| 9年 | 道の農業生産法人育成総合支援事業の十勝管内第1号に認定、事務所建設 |
| 10年 | 従業員1名採用、車庫、てん菜育苗ハウスの建設 |
| 11年 | 小麦乾燥施設、馬鈴しょ低温倉庫などを建設 |
| 13年 | 従業員1名採用 |
| 15年 | 農家1戸加入 |
| 16年 | 従業員1名採用、倉庫建設 |
| 17年 | 小麦乾燥施設を増設 |

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・昭和60年以降の農産物価格の低下による収入の減少に対して、所得確保のためコスト低減や収量増加に努力してきたが個別経営ではもはや限界にきていた。また、ガットウルグアイラウンド合意以降、さらに農業が厳しい環境になると予想したことから、これらに対処していくためには、地域の仲間が力を併せるしかないとの考えから共同経営の道を模索していた。
- ・構成員の6戸は、下佐幌地区の2集落にまたがり、過去に汎用コンバインの利用組合員として機械の共同利用を行っていたこともあったが、それぞれに後継者がいなかったり、未婚者のままでも所得を上げながら営農を継続していかなければならないという課題を持っていた。
- ・こうした状況下において、構成員の中に汎用コンバインの所有者が2名おり、これを皆で活用できたら機械の購入等のコストを下げて収益を上げることができるのではと考えた。また、共同経営による余剰労働力を生かした農作業受託による収益増加が図られるのではないかと検討をした。
- ・当時、清水町が農業ビジョンに農業法人の設立推進を盛り込み、これを具体化していく時期とタイミングが合い、さまざまな支援を受けることができることと、平成9年度から町が進める農作業受託事業とタイアップすることができることから、元の機械利用共同組合を母体とした共同経営体の有限会社メロディーファームを平成8年10月に設立した。構成農家5戸でスタートしたが、15年に1戸が加入し、6戸による共同経営を行っている。
- ・経営目標は、①農作業受託による収入増 ②てん菜は種・育苗センターの運営による収入増 ③社会保険制度や休暇制度の導入による社員の福利厚生の実現 ④女性の労働負担の軽減 ⑤作物共済金が8割であっても運営できる会社経営 ⑥サラリーマン管理職の所得900万円を目標とした所得確保をめざしてスタートさせた。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・個別に抱えていた負債は、会社に引継ぎ、毎年の構成員の地代の支払いによって相殺した。平成 15 年には全て完済した。
- ・個別に所有していた農業機械は、ホクレンに価格の査定を行ってもらった上で、会社が買い上げて、個人の負債軽減を図った。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- 会社組織としての苦労もあるが、メリットとして次のようなことがある。
- ・構成員の所有する機械が有効活用できて、コスト低減につながった。
 - ・畑作の輪作体系がきちんととることができた。
 - ・社会保険や厚生年金などに加入し、社員が病気やケガ、老後のことを安心して働けるようになった。
 - ・繁忙期を除いて、日曜の定休制度導入により、ゆとりある生活の実現ができた。
 - ・女性の労働負担を軽減することができた。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・栽培技術が要求される畑作物では、構成員がそれぞれ異なった考えを持っていることから、意見が食い違わないように良く話し合い、チームワークを大切にする。
- ・管理作業が女性の負担にならないように、男女みんなで行う。
- ・ユニフォームをつくり、それを着ることで連帯意識を高めることができる。
- ・作業着でいつでもミーティングができるような事務所が必要である。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・経営農地ができるだけ近場で地続きになる人たちが集まって法人化することが望ましい。
- ・構成員の高い技術を持った中で、法人が目指す目標や考え方を共有すること。
- ・機械・施設を最小限にし、過剰投資は行わないこと。
- ・農協が設立にうまくかかわってくれることがベスト。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・栽培技術に関しては得意、不得意があるので 5 戸の技術レベルにより各部門に適正に配置しているが、全員で作業を行っている。
- ・構成員の各自の高い技術を最大限に活かし、無駄な経費(機械・施設の合理的かつ適正数)をかけず、所得を上げ、ゆとりある豊かな生活を楽しんでいる。
- ・作業内容や人員配置などについては、男性は、午前 7 時 30 分に、女性は 8 時に毎朝集合して、話し合っで決定している。
- ・お揃いのユニフォームを作って、連帯意識を高めている。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・現在の生産性を維持しながら、経営の規模拡大をしていきたい。
- ・構成員全員が交代で社長になることを目標としている。

〈一口メモ〉

会社名の「メロディーファーム」は、清水町はベートーベンの第九の町として知られることから、これにちなんで名づけている。農業の「夢を奏でる」という意味が込められている。

〈視察の受入〉

詳細については要相談。

連絡先: 0156-62-5880 (担当: 代表取締役社長 十川隆好)